

在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所主催

第5回大連日本語人材

育成フォーラム

報告書

2023年10月22日（日）13:30～16:30

主催：在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所

共催：日本貿易振興機構大連事務所、大連日本商工会、中国日語教学研究会大連分会

協力：国際交流基金北京日本文化センター

目次

- フォーラムの概要 2
- 主催者挨拶（等々力研・在大連日本国領事事務所 所長） 4
- 基調講演1「日本語教育の現状、日本語人材育成の取組み」 6
講演者：中国日語教学研究会大連分会 杜鳳剛 副会長
- 基調講演2「日本語人材確保状況と、企業が求める人材、大学との交流」 12
講演者：野村綜研（大連）科技有限公司 河口千代孝 董事・総経理
- 基調講演3「中国全土における日本語教育の支援」 17
講演者：国際交流基金北京日本文化センター 野田昭彦 所長

- パネルディスカッション「今後求められる大連日本語人材の育成と確保」 23
パネリスト：重岡純・日本貿易振興機構大連事務所 所長
河口千代孝・野村綜研（大連）科技有限公司 董事・総経理
杜鳳剛・中国日語教学研究会大連分会 副会長
熊鑫・欧力士大厦（大連）有限公司 招商部副総監
モデレーター：熊野慎治・在大連領事事務所次席領事
- 共催団体代表挨拶 34
挨拶者：柴田晃伸・大連日本商工会 会長／日本航空大連支店 支店長
陳岩・中国日語教学研究会大連分会 会長
- 閉会挨拶（重岡純・日本貿易振興機構大連事務所 所長） 37

文責：在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所

※1 本報告書における記述は全て発言者個人の意見であり、所属する企業、大学及び団体の見解を代表するものではありません。

※2 本報告書の著作権は在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所に帰属します。

概要

1 日時

2023年10月22日（日） 13:30～16:30

2 場所

大連市瑞詩酒店 7階宴会場

3 主催団体等

主催：在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所

共催：日本貿易振興機構大連事務所、大連日本商工会、中国日語教学研究会大連分会

協力：国際交流基金北京日本文化センター

4 目的

コロナ禍の3年間を挟んで、日本企業、教育機関、学生間での意思疎通が十分行われていなかった現状を踏まえて、大連市の日本語人材について講演、パネルディスカッションを通じた意見交換を行い、今後の日本語人材の確保・育成の方法について議論を行う。

5 全体結果概要

10月22日、第5回日本語人材育成フォーラムを大連瑞詩酒店にて開催した。当日は大連市政府、大連市内大学等の日本語教育関係者及び日本企業関係者が約110名参加した。

等々力研所長は、主催者挨拶で、日本と大連には長い交流の歴史があり、交流を支えてきた重要な要素の一つは、大連の豊富で優秀な日本語人材であること、また、現在でも約1700社の日系企業が大連に進出しており、多くの日本語人材が大連の発展を支えていると述べた。さらに、本年は日中平和友好条約締結45周年の記念すべき年であるとともに、大連日本商工会設立40周年、在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所及び日本貿易振興機構大連事務所の開設30周年という、日本と大連連の交流においても節目の年であることに触れ、本日のフォーラムを契機に日本語教育関係者と日系企業・対日ビジネス関係者の連携が更に深まることを期待する旨発言した。

その後、大連市での日本教育の現状や日系企業の取組み、中国全土で行われている日本語教育支援について基調講演を行った後、「今後求められる大連日本語人材の育成と確保」とのテーマの下、パネルディスカッションを実施した。

6 パネルディスカッション結果概要

(1) 大連市で日本語人材を育成する意義

- 大連市は東北三省の大学での日本語学習者数全体の6割を占め、2019年の日本語能力試験(N1)での人口100万人あたりの受験者数は中国大陸1位である。
- 大連方言の中には日本語の影響を受けているものがあり、歴史的な繋がりがある。改革開放政策により日本との交流が非常に盛んになり、日本語教育も活発に行われるようになった。
- 大連の方は読む・聞く・書く・話すの4技能だけでなく、日本の文化やビジネス習慣を理解している方が非常に多いという点が、大きな優位性。大連の日本語人材は日本からの顧客対応において行間を読み解く能力も有しており、日本人顧客とスムーズなビジネスコミュニケーションを取れる点は非常に大きな利点。
- 近年、日本においては労働力人口の減少が叫ばれており、日本向けの仕事という観点では、大連の教育機関において日本語を学ばれている皆様は、大きな優位性やポテンシャルがまだまだある。

(2) 大連での日本語人材育成環境が抱える課題・改善点

- 日本語の能力だけではなく、日本語プラスαの力が求められる時代となっている。専門的な知識や、日本の商習慣への理解が求められる。学生の自主性や発想力、チャレンジ精神やチームワークといったソフトスキルを求める声もあった。
- 大学等教育機関と日系企業との交流促進は双方にとって需要が大きく、重要なことだが、そのためには、双方の信頼関係醸成が重要である。
- 一部の大学と日系企業は「企業連携クラス」を実施しており、このような取組み事例を共有する場の創出が求められる。今後は政府や大学側が開催することも一案。
- 大連で学んだ学生が他都市で就職する「人材の流出」については社会全体で取り組むべき課題であり、大連市内の就職環境整備等が求められる。
- 企業側と大学側はお互いに交流をしたいという希望を持っている。大学側も交流したいという希望をもっている機会がなかなかない。企業も大学も人事異動があるため、連携を継続することが重要である。若い世代への引き継ぎのためにはお互いの努力が必要。大連外国語大学以外でも日系企業との交流の機会が欲しいという声が大きいため、希望している大学に機会を提供して欲しい。

(3) 政府等への要望や今後への希望

- インターンシップや企業説明会、企業見学等を通じた、日系企業の業務を知り・体験する機会の創出を希望する。
- 大学等教育機関と日系企業が交流できる場の創出を希望する。また、政府機関による交流の場創出の後押しを希望する。

主催者挨拶

等々力研・在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所所長

等々力研・在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所所長挨拶

ご臨席の皆様

本日は、当領事事務所主催の「日本語人材育成フォーラム」にご参加いただき、心より御礼申し上げます。

2017年に開始された本フォーラムは、今年第5回目の開催となった。この場をお借りして、大連で日本語教育に携わる皆様に敬意を表すると共に、今回のフォーラムで御協力をいただいている日本貿易振興機構大連事務所、大連日本商工会、中国日語教学研究会大連分会並びに国際交流基金北京日本文化センター等関係者の皆様に御礼申し上げます。

ご承知のとおり、日本と大連には長い交流の歴史がある。1978年に改革開放政策が始まった以降だけを見ても、1992年に大連日本工業団地プロジェクトが調印されるなど、大連は日本と協力し、交流しながら現在の地位を築き上げてきた。そして、その地位と交流を支えてきた重要な要素の1つは大連の豊富で優秀な日本語人材である。

そのような状況は現在でも変わらず、約1700社の日系企業を始めとして多くの日本語人材が大連の発展を支えている。3年間のコロナの期間の後、国際社会、また大連を取り巻く環境はこれまでとは大きく違ってきているが、このような中、今回のフォーラムにおいて、「今後求められる大連日本語人材の育成と確保」をテーマとし改めて大連の日本語人材の現在地を確認し、今後の大連の日本語人材のあり方について、関係者によるディスカッションを通じて考えていくことは意義のあることかと思う。

特に本年は日中平和友好条約締結45周年の記念すべき年であると共に、大連日本商工会設立40周年、在瀋陽総領事館在大連領事事務所及び日本貿易振興機構大連事務所の開設30周年と日本と大連の交流においても節目の年である。本日のこのイベントを契機に、日本語教育関係者と、大連日本商工会会員企業をはじめ対日ビジネスに参画する各企業との連携が更に深まり、日本と大連の関係が今後も深まり、共に発展していくことを期待する。

最後に、本フォーラムの成功とご来場の皆様の益々のご健勝を心より祈念して、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

第一部

基調講演 1

「日本語教育の現状、日本語人材育成の取組み」

講演者：中国日本語教学研究会大連分会 杜鳳剛 副会長

日本語教育の現状と日本語人材育成の取組み

—日本語人材育成フォーラム
2023年10月22日

1

一、就職先から見る日本語人材採用の現状

アンケート調査の基本情報

- 実施期間：7月10日～7月23日
- 実施方法：商工会HPにて実施
- 有効回答社数：103社
- 回答企業の業種(右図23)及び企業規模(下図)

業種名	社数
金融・保険業	6
建設・不動産業	3
流通・物流業	7
IT・通信業	10
IT・通信業	16
マスコミ・メディア・広告業	0
化学材料・科学工業	2
自動車・機械業	20
電機・精密機器業	19
食品・飲食業	6
生活用品業	4
サービス業	4
エンタメ・レジャー業	0
合成樹脂の着色及び加工、卸売	1
製造	1
鉄鋼・製造業	1
木材・建材	2
空調設備販売	1
繊維・皮革業	1
窯業・煉瓦業	1
住宅機器製造業	1
グループ企業内での社内BPOサービス	1
行政・公務・公的機関(地方自治体含む)	4

従業員総数

2

1 中国人従業員の内、日本語人材の割合

中国人従業員の内、日本語人材の割合

- 大連日本商工会所属693企業の内、103企業から回答を得た。
- 日本語人材(業務上日本語を使用するもの)の割合は「10%未満」と回答した44社のうち、35社が製造業。
- 残り9社の内、6社が「運輸・物流」または「流通・小売り」業種となっている。
- 日本語人材の割合が「70%以上」と回答した企業は地方自治体事務所や公的機関、IT業界の企業が多い傾向にあった。

3

2-1 日本語人材を採用する目的

日本語人材を採用する目的(複数選択可)

求める日本語人材の職種(複数選択可)

- 日本語人材を採用する目的は「日本との取引や関連業務を担当する人材が必要のため」が一番多く、次いで「自社内での円滑なコミュニケーションをとるため」となった。
- 日本語人材の職種は幅広く、就職後の活動の幅は広い。

4

2-2 企業が求める日本語人材

採用時に求める日本語能力(複数選択可)

日本語人材採用時に重視する品項(複数選択可)

- 採用時に求める日本語人材の日本語能力は「N1レベル」、「N2レベル」が同率1位で69社の回答があった。
- また、日本語能力だけでなく、コミュニケーション能力やビジネスマナーも採用時に重視されている。

5

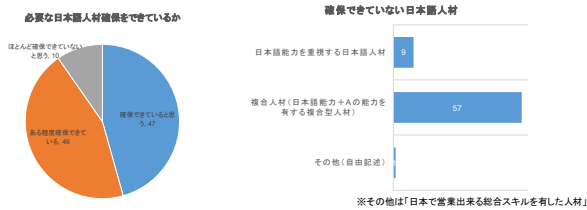
2-3 日本語人材の募集方法

日本語人材の募集方法(複数選択可)

- 日本語人材の募集は求人サイト、または人材仲介業者を利用しているケースが多く、大学への直接のアプローチは28票のみであった。
- その他には「Wechatのモーメンツ」(1票)、「知人からの紹介」(2票)が挙げられた。

6

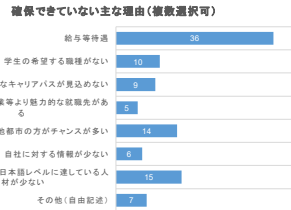
2-4 日本語人材の確保状況(1)



- 必要な日本語人材が確保できていると回答したのは半数以下の47社で、ほとんど確保できていないとの回答は10社にのぼった。
- 特に、**純粋に日本語能力を求めらるだけでなく、複合型人才の需要が大きい。**

7

2-4 日本語人材の確保状況(2)

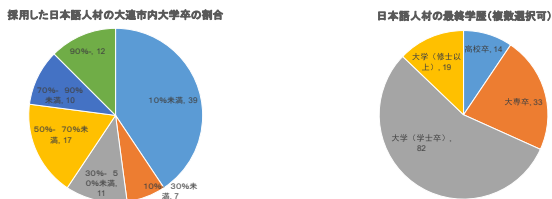


- 日本語人材が確保できていない主な理由は「給与等待遇」であった。**回答の中には、日本語+αの複合型人才は、より高い給与を望んでいるとの声もあった。
- また、応募者の「日本語レベル」が会社が求めているよりも低いという声も2番目に多く、**日本語能力の向上も課題の1つ**であると伺える。

※その他の中には、会社が扱う専門分野の知識を有している人材が少ない(=複合型人才の不足)(6社)、仲介業者に依頼しても応募者が少ない(1社)、業務上のストレスに耐えられる人材不足(1社)

8

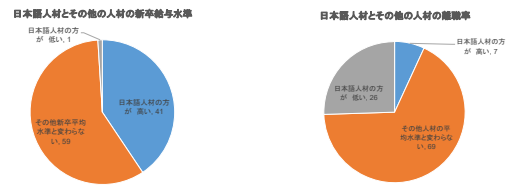
2-5 日本語人材の属性



- 採用した日本語人材の大連市内大卒の割合は「10%」未満が最も多く39社だったが、その内製造業は25社。
- 大連市内大学卒が「50%以上」占める企業は39社あり、ITや行政系の業種が多い傾向にあった(製造業は14社)。

9

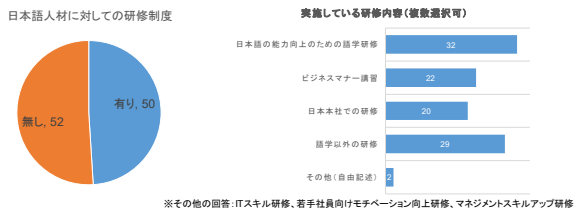
3-1 日本語人材とその他の人材の比較



- 日本語人材の新卒給与水準は過半数の59社がその他の新卒水準と変わらないと回答した一方で、**日本語人材の方が高いと回答した企業も41社**にのぼった。
- 日本語人材の離職率はその他の人材とあまり変わらない企業が最も多く69社あったが、日本語人材の方が低いとした企業も26社あった。

10

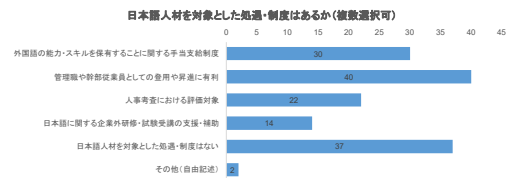
3-2 日本語人材に対する研修制度



- 約半数の企業が日本語人材に対する研修制度を有している。
- 最も多いのは日本語能力向上のための語学研修(32社)だが、語学以外の研修も多い(29社)。

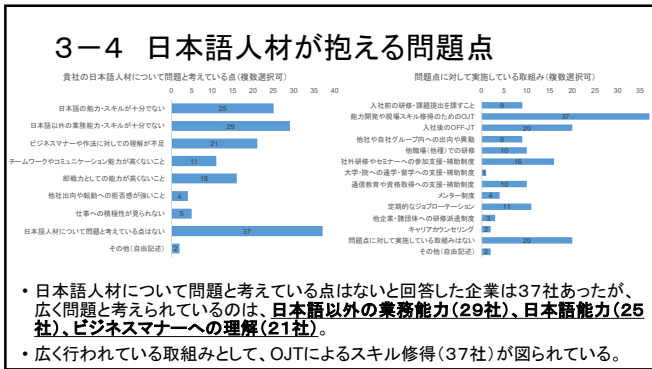
11

3-3 日本語人材の処遇制度

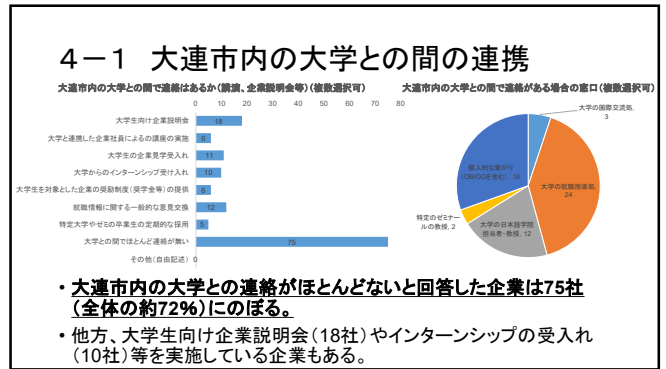


- 日本語人材を対象とした処遇を設けている企業も多く、「**管理職や幹部従業員としての費用や昇進に有利**」と回答した企業は**40社**にのぼった。
- 他方、**日本語人材を対象とした処遇・制度はない**との回答も多かった(37社)。

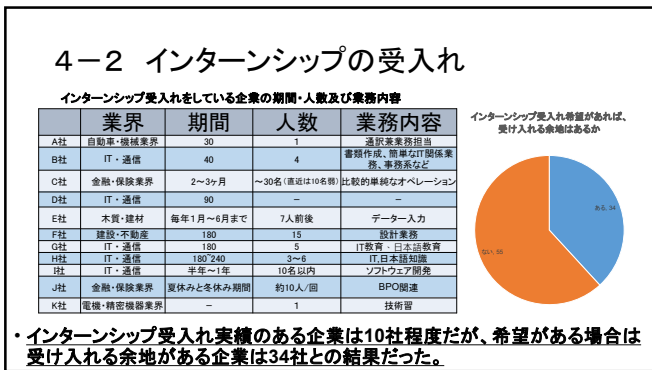
12



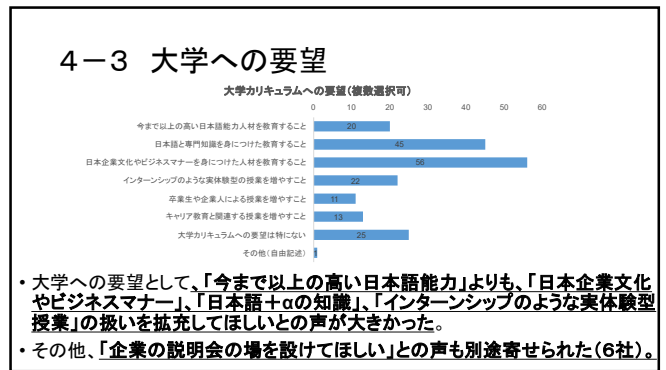
13



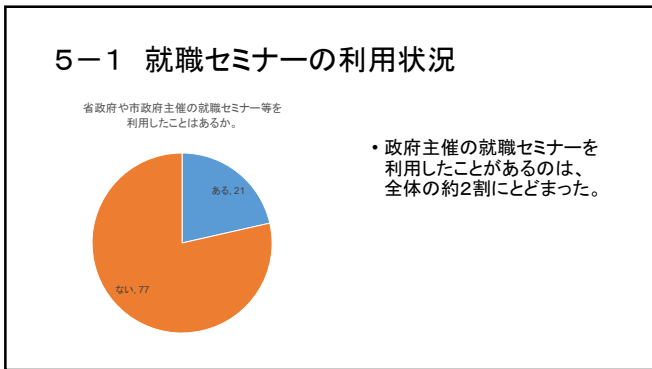
14



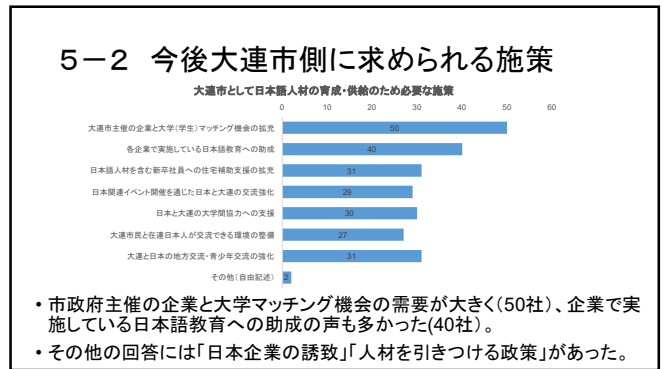
15



16



17



18

二、大学における日本語人材育成の現状

アンケート調査の基本情報

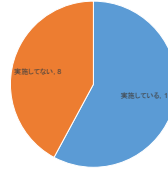
- 7月10日～23日にオンラインで実施。
- 大連所在の大学・学院の内、19の学校から回答あり。
- 日本語学習生徒数には、日本語専攻の他、日本語+α(複合型人材)、第二外国語履修者を含む合計数を記載。

教育機関名	日本語学習 学生数
大連交通大学	540
大連東軟信息学院	800
大連科技学院	550
大連工業大学	550
大連理工大学	1170
大連海事大学	300
大連大学	965
大連理工大学ソフトウェア学院	480
大連海洋大学	510
大連民族大学	630
大連医科大学中山学院	92
大連藝術学院	509
遼寧对外经贸学院	810
遼寧師範大学	60
大連農業技術学院	450
大連理工大学城市学院	295
東北财经大学	85
大連外国语学院日本語学院	1700
大連外國語大学(ワットウエツ)学院	2800

19

1 大学内でのキャリア教育

大学において外資系企業就職希望者のキャリア教育を行っているか



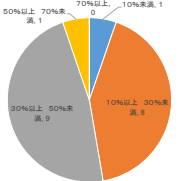
<実施している教育内容> (※数字は重複数)

- ビジネススキル講座(5)
 - ※オフィスソフト、簿記、BPO関連業務理解等
- ビジネスマナー・ビジネス日本語講座(4)
- 企業文化(2)
- 企業見学(1)
- 就職指導(2)
- 日本文化(1)

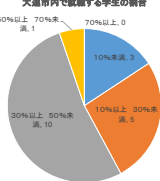
20

2 大連市内での就職率

大学卒業生全体の内、大連市内で就職する学生の割合



大学を卒業する日本語専攻学生及び複合型人材(日本語+α)の内、大連市内で就職する学生の割合

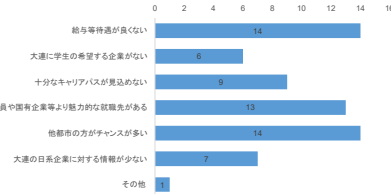


- 大連市内での就職率では、日本語人材全体に関わる傾向は見られなかった。
- 大学卒業生全体及び日本語人材の卒業生の内、大連市内就職率が50%以上を超えているのは1校のみ。

21

3 大連から人材流出している原因

日本語専攻学生及び複合型人材(日本語+α)が大連の日本企業に就職しない主な理由

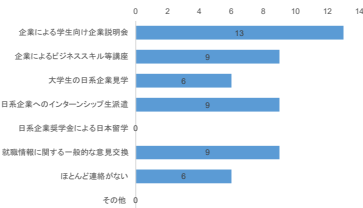


- 給与等待遇が良くない(14校)、「他都市の方がチャンスが多い(14校)」「より魅力的な就職先がある(13校)」の順で回答が多かった。

22

4 大連市内の日系企業との連絡方式

大連市内の日系企業との間でどのような連絡があるか

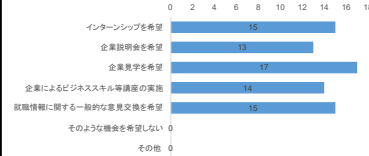


- 「企業による企業説明会(13校)」は多くの学校で実施されていた。
- 他方、それ以外の「日系企業へのインターンシップ生派遣(9校)」「日系企業見学(6校)」等は、いずれも半数以下の結果となった。

23

5 希望する日系企業との交流方式

日系企業との交流の機会があれば希望するか(複数回答可)



- 日系企業との交流する機会~~は~~総じて需要が大きかった。
- 「企業見学」「インターンシップ」「就職情報に関する一般的な意見交換」の順が多かった。

24

まとめ(人材確保難)

- 「必要な日本語人材を確保できている」と回答した企業は103社中47社
→ **人材確保の時点で問題**がある。
- 人材募集方法で、大学への直接アプローチを行っている企業は28社のみ。大連市内の大学との間で普段連絡がほとんどないと回答した企業が75社に上ったことから、**日系企業と大学との間での連携が十分に取れていない現状がみてとれる。**
- 大学側のアンケート結果から、「大連の日系企業に対する情報が少ない(7校)」との声も一定数確認された。
→ **学生時代に日系企業と交流する機会が無い現状を変えなければ、人材確保難は解消されないのではないか。**

25

まとめ(日系企業と大学の交流の場の創出)

- アンケート回答の日系企業(103社)の内、インターンシップ生を受け入れているのは約10社であり、その受け入れ人数実績は年間100名以下。
- 大連市内で日本語を学ぶ学生は1学年あたり3,500名以上いる現状に照らして、インターンシップ等の実習を通じて日系企業の業務を知れる機会は少ない現状。
- 大学19校中、企業見学を希望(17校)及びインターンシップを希望(15校)している学校は大部分を占めている。
- → **インターンシップ等実習の需要はあるが、大学と企業間の交流ができていない現状。人材確保難解消のためにも、交流機会の創出が必要。**

26

第一部

基調講演 2

「日本語人材確保状況と、企業が求める人材、大学との交流」

講演者：野村綜研（大連）科技有限公司 河口千代孝 董事・総経理

テーマ：「日本語人材確保状況と、企業が求める人材、大学との交流（企業側）」

野村総研（大連）科技有限公司

2023年10日

NRI

Envision the value.
Empower the change

1

NRI大連のご紹介

2

NRI大連のご紹介

NRI大連は2010年10月、野村総合研究所の中国大陸第三番目の拠点として設立

内容	
社名	野村総研（大連）科技有限公司 / Nomura Research Institute (Dalian), Ltd.
本社	大連市高新技术産業園区ソフトウェアパーク東路40号23号館201/202室
設立	2010年10月1日
従業員数	990名（2023年8月31日 パートナー含む）
株主構成	株式会社 野村総合研究所100%

NRI大連 正社員数の推移

近年はDX推進による生産性向上により、社員採用は30名前後と低減すると共に高いポテンシャル人材の採用に力を入れている

3

NRI大連のご紹介

NRI大連の沿革

- 2010年度: BPO業務開始
- 2012年度: 金融業務に特化した資産運用BPO投資情報BPO開始
- 2015年度: シェアードサービス業務開始
- 2020年度: ITO業務 KPO業務開始
- 2020年度: 中国国内業務開拓
- 2021年度: 労務派遣・人材資源許可取得
- 2022年度: ISO27001 ISO27701認定取得
- 2023年度: 業務コンサルティング IT・DXソリューション 翻訳・ドキュメント作成

4

求める人材と日本語人材確保状況

5

求める人材と日本語人材確保状況

NRI大連の人材特徴

- 日本語1級レベル：85%
- 留学経験あり：43%
- 大学卒業：70%
- 修士卒業：25%
- BPO人材：74%
- ITO人材：14%
- KPO人材：9%

6

求める人材と日本語人材確保状況
NRI大連の人材募集の変化

BPO人材からデジタル人材への転換

- BPO業務の役割細分化が進み、高度な専門性を有した人材の需要が高まっている
- お客様からも、業務プロセス改革、RPAなどのソリューションサービスを導入に向けた、DX人材、データ分析、プロジェクトマネジメント人材への需要が高まっている

(~2020年まで)
募集要件：日本語人材

- 日本語1級レベル
- 留学経験優先
- BPO関連経験優先
- 英語人材
- ITシステム保守

→

(2021年から～)
募集要件：日本語+α人材

- 日本語ビジネスレベル
- ビジネスマナー・商習慣優先
- データ分析能力
- コンサル人材
- RPA効率化、システム推進人材

Copyright © Nihon Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 6

7

求める人材と日本語人材確保状況
NRI大連が直面している課題

課題

- NRI大連では、これまで中途採用が主たる採用手段で、社員の平均年齢が年々上昇、新陳代謝が進んでいない。
- ポテンシャルの高い若者が北上広などの大都市へ流出し、大連現地に残る人材が減少傾向

対策

- 大学生へ企業連携クラスの提供、及びインターン開催を通じ大連に残る人材を増やす
- ポテンシャルの高い新卒者の定期採用

社員の年齢バランス

業務拡大 人材確保

人材補充

人員費上昇 対策

NRI大連の長期発展

項目	2019		2020		2021		2022		2023	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
在籍人数(人)	275	286	298	299	314	320	329	322	326	
退職率(%)	7.6	5.9	6.4	6.4	7.3	6.0	4.0	4.0	4.0	
平均年齢(歳)	31.2	32.9	32.6		33.9	34.5				

Copyright © Nihon Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 7

8

大学との交流状況

Copyright © Nihon Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 8

9

大学との交流状況
大学との交流活動

- 大学募集会の定期例会：大学秋面接・春面接の参加
- 採用募集会の開催：大学四年生に向けてNRI大連会社紹介&NRI大連面接会の開催
- 公開授業の定期開催：就職キャリアアップの公開授業を開催
- イベントの参加：大学日本語コンテスト試合の参加

番号	大学	地域	概要	活動内容
1	大連外国语学院	遼寧省大連市	2024年に設置された日本語専攻は大連外国语学院の発展の中で、最も高い期待を持つ学科であり、日本語学院の学生の「言語の能力が高い」ことは国内外でよく知られ、高い評価を得ている。	●大学募集会の定期例会 ●企業募集会の開催 ●公開授業の定期開催 ●イベントの参加 ●定期的に大学と意見交換・情報共有
2	東洋経済大学	遼寧省大連市	本学は国際的な交流を重視し、国際的な人材共同育成を強化しており、国際性、多言語、応用性の人材を養成に力を入れている。	●大学募集会の定期例会 ●イベントの参加 ●定期的に大学と意見交換・情報共有
3	大連海事大学	遼寧省大連市	日本語専攻の開設は常に学生の言語応用力の強化だけでなく、「日本語+IT」新に大連な力を入れています。	●大学募集会の定期例会 ●企業募集会の開催 ●定期的に大学と意見交換・情報共有
4	大連理工大学	遼寧省大連市	本学は 創造性、社会性、応用性の高い人材を育成し、優秀な人材の育成を目指し、教育の理念、計画、実践の面で、他大改革と革新を推進し、大学としての発展を遂げています。	●大学募集会の定期例会 ●企業募集会の開催 ●定期的に大学と意見交換・情報共有
5	経国大学	吉林省延吉市	経国大学は国家「11プロジェクト」の重点建設大学、日本語人材、韓国語人材、英語人材を育成する。	●企業募集会の開催 ●定期的に大学と意見交換・情報共有

Copyright © Nihon Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 9

10

大学との交流状況
NRI大連企業連携クラス

これまでの大学との交流をさらに推し進める中で、前述の課題に取り組むため、大連外国语学院日本語学院と企業連携クラスを開設するに至った

21年5月	大学との相互理解信頼関係構築	NRI大連企業連携クラス設立について、日本語学院の院長や教員書記と権限の移行・交流を実施。2021年5月大学の承認を取得
21年10月	募集会の開催	大学でNRI大連企業連携クラスの紹介・宣伝 参加人数：大学三年生約60名
22年3月	第一期開講	大連外国语学院日本語学院とNRI大連が共同開催する、第1回「企業連携クラス」が2022年3月から開始。1期生学生30名が参加。
22年7月	夏休み&冬休みインターン活動	夏休みと冬休み研修活動を開催し、NRI大連業務内容、企業文化を体験
23年02月	第一期生採用	新卒定期採用として新卒生9名がNRI大連に入社
23年3月	第二期開講	2023年3月NRI大連企業連携クラス二期を開講。2期生学生30名が参加。

Copyright © Nihon Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 10

11

大学との交流状況
NRI大連企業連携クラスの講座内容

大学、学生、及び企業側のニーズを参考に、NRI大連社員だけでなく、外部機関も交えたカリキュラムを策定し、出席率及び期末試験の成績により、2単位取得講座とした。

回数	種別	テーマ	内容	担当先生
第1回	—	授業概要式	本学部の学習目標と授業内容についてご説明	NRI大連社員
第2回	基礎	基礎知識	基礎知識を学ぶ授業の開催	TAC
第3回	実践	知識管理 1	1. 認知科学的必要性 2. 建立時間管理の重要性	51job
第4回	実践	知識管理 2	3. 分散的学習の重要性 4. 最高管理知識の重要性	51job
第5回	IT開講	IT開講の基本知識 I RPA関連	RPA関連 為公自動化OA	NRI大連社員
第6回	日本語	ビジネスメール I	ビジネスメールの基礎	TAC
第7回	日本語	ビジネスメール II	ビジネスメールの応用	TAC
第8回	基礎	学習と勉強	学習の効率化と勉強の仕方	TAC
第9回	IT開講	IT開講の基本知識 II RPA関連	RPA関連 為公自動化OA	NRI大連社員
第10回	試験	期中試験	—	—
第11回	基礎	基礎知識の復習	7分法、勉強と休息の重要性	TAC
第12回	基礎	現金および現金取引	現金、当座預金、小口現金など	TAC
第13回	IT開講	IT開講の基本知識 I Upath関連	Upath特約	NRI大連社員
第14回	実践	読解力向上講座 I	読解力向上講座 I	51job
第15回	実践	読解力向上講座 II	● 読解力向上講座 II ● 読解力向上講座 II ● 読解力向上講座 II	51job
第16回	IT開講	IT開講の基本知識 II Upath関連	Upath特約	NRI大連社員
第17回	基礎	手形取引	手形取引と為替手形	TAC
第18回	試験	期末試験	—	—

Copyright © Nihon Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 11

12

大学との交流状況
NRI大連企業連携クラス

■大連外国語大学日本語学院 于飛院長からのメッセージ
気持ちの変化：不安→安心→期待



NRI大連企業連携クラスは、大連外国語大学日本語学院にとって初の試みです。最初は不安もありましたが、野村総研（大連）科技有限会社の皆さんと何度も交流を重ね、この活動に対して期待と自信を持つようになりました。毎月定期的に学生たちの出席状況や宿題状況、ご意見などを共有いただき、学生たちの学習状況を随時把握できることにも安心しました。この企業連携クラスをきっかけに、今後力を合わせて学生たちの立派な成長に寄与していきたいと思っております。

■1期生の感想：

企業文化の理解	社会人としての責任感	自己成長	達成感
---------	------------	------	-----

- 企業連携クラスを通じて、NRI大連を始め知りました。ここで学んだ日本語ビジネスやITに関する知識は学生から社会人への転身を成し遂げるための土台にもなっています。
- 初めて職場に入って、非常に緊張していると感じました。しかし、先輩たちのおかげで、より多くの技能を身につけ、少しずつ、業務に独自に対応することができるようになってきました。
- 研修を通じて、職場生活にどんどん慣れてきています。とても幸せと感じています。

Copyright (C) Nemura Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 12

13

大学との交流状況
企業連携クラス第一期生 卒業式・入社式

6月14日（水）午後13：30～15：00 第一期生卒業式開催



NRIクラス終了証書を授与
卒業式に参加した学校の先生、1期生、2期生とNRI大連の先生の集合写真
NRI大連入社通知書授与
大学ホームページからも大きく報道

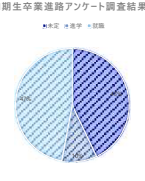
Copyright (C) Nemura Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 13

14

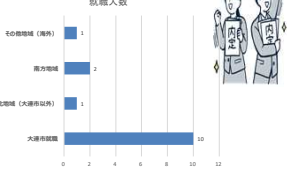
大学との交流状況
第一期生卒業進路について

第一期生人数	就職	進学	その他	大連市就職 (大連市以外)	東北地域 (大連市以外)	南方地域	その他地域 海外
30	14(47%)	3(10%)	13(43%)	10	1	2	1

1期生卒業進路アンケート調査結果



就職人数



Copyright (C) Nemura Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 14

15

大学との交流状況
NRI企業連携クラス2期の推進と今後の目標



2022年10月 座談会開催、第2期クラス学生を募集
2023年3月 第2期クラス正式開講
2023年3月～6月 大学での進学教育
2023年7月 2期生の夏休みインターン
2023年7月 他企業にもインターン生推薦

NRIクラス授業内容
先生、及び1期生の意見を参考に授業内容の見直し

2期の工夫点
夏休み終了後も継続就業機会を提供
職場での勉強時間を増やす


外部会社との連携
インターンシップでは、大連の他企業にも学生の紹介を実施

今後はNRI大連1社による授業設定ではなく、人材ニーズがある日系企業と手と携えて、企業連携クラスの開催など模索したい

Copyright (C) Nemura Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 15

16

Envision the value,
Empower the change



Copyright (C) Nemura Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 17

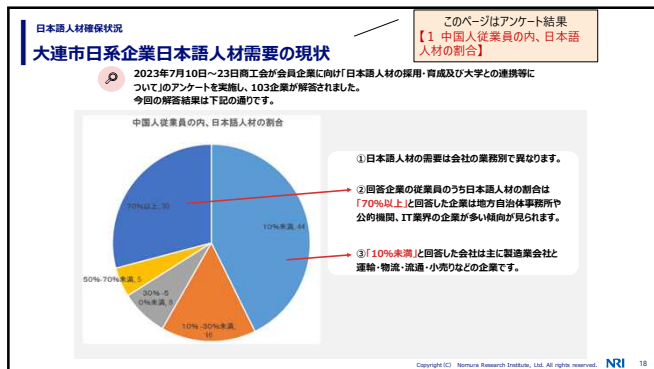
17

NRI大連の主な業務内容

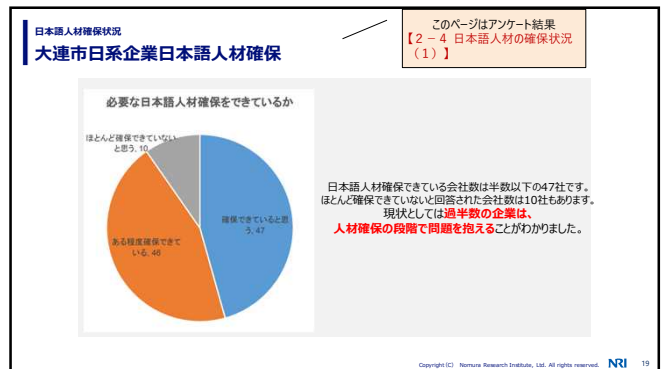
<p>BPO</p> <ul style="list-style-type: none"> 資産運用BPO 投資情報BPO 総務、財務BPO 事務系BPO 	<p>ITO</p> <ul style="list-style-type: none"> ITシステム保守 ITソリューション導入支援 セキュリティサービス 24×365サポートデスク 	<p>KPO</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画書、提案書、セミナーなど ドキュメント作成 各種データリサーチ・多拠点分析 AIデータマーケティング 多言語翻訳 	<p>コンサルティング</p> <ul style="list-style-type: none"> 業務改善コンサルティング DXコンサルティング 経営コンサルティング
<p>ITソリューション</p> <ul style="list-style-type: none"> RPAソリューション 生産管理システム AI-OCR 	<p>テスト</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動化テスト 組み込みテスト テストBPO 	<p>クラウドソリューション</p> <ul style="list-style-type: none"> コンサルティング 導入・環境構築 運用保守 運用改善支援 	<p>人材派遣・紹介サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> IT/システム/ネットワーク人材 BPO/IT/ITTO業務移管支援人材提供 業務改善コンサル人材提供 高度金融人材提供 技術人材提供

Copyright (C) Nemura Research Institute Ltd. All rights reserved. NRI 17

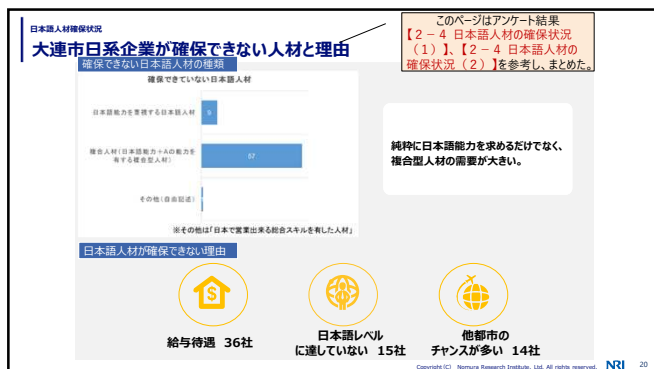
18



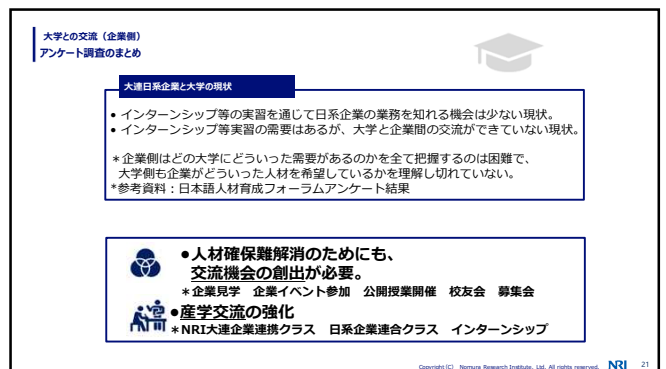
19



20



21



22

第一部

基調講演 3

「中国全土における日本語教育の支援」

講演者：国際交流基金北京日本文化センター 野田昭彦 所長

中国全土における日本語教育支援



1

目次



- ・組織概要
- ・中国全土における日本語教育支援
(教師研修、教材・コンテンツ、各種情報発信、その他)



2

国際交流基金について



- ・国際文化交流を世界の全地域で総合的に実施する専門機関
外務省所管の独立行政法人。
- 1972年に特殊法人として設立
- ・海外25か国に、26の海外事務所を設置。
- ・北京日本文化センターは中国において唯一の拠点
- ・日本国内には埼玉と大阪に二か所の日本語研修施設を有する
- ・文化芸術交流、日本語教育、日本研究・国際対話の3分野で事業を展開

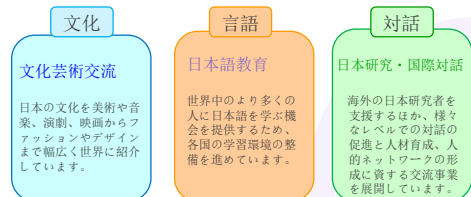


3

3つの事業分野



文化で日本と世界を繋ぐ



4

中国における日本語教育支援

- ・日本語教師研修（高等・中等・研究支援）
- ・教材・授業素材
- ・各種情報発信
- ・その他



JAPAN FOUNDATION

5

中国における日本語教育支援

- ・日本語教師研修（高等・中等・研究支援）
- ・教材・授業素材
- ・各種情報発信
- ・その他



JAPAN FOUNDATION

6

高等教育篇

①大学日本語教師教授法集中研修

毎年7月～8月に実施

JAPAN FOUNDATION 日本文化センター

7

高等教育篇

②日本語学術交流及び発展サミット

毎年春に実施

日程	内容	発着委員
09:00-09:30	開会式	菅原 隆
09:30-10:20	基調講演1: “進捗中日”の翻訳実践——以中译日为例	藤田 隆
10:20-11:00	基調講演2: 从高中日语课标到日语能力考试	徐一平
11:00-12:00	午餐	菅原 隆
13:00-12:30	基調講演3: 为什么单科大学教师高中日语教师——从课标到课标、课标到课标、课标到课标	赵华敏

JAPAN FOUNDATION 日本文化センター

8

中等教育篇

中等日本語教師初任者研修

毎年10月～12月頃に実施

内容: 学习“教师在日语课堂上的作用”“基础教学设计”“四技能(听、说、读、写)的教学方法”等日语教育的基础内容。也有可能变更部分内容。

形式: 线上(腾讯会议)
使用语言: 日语(日本人教育专家讲座)
会议费: 免费

1. 外国語を学ぶということ
2. 基本的な授業の組み立て
3. 話すことを教える
4. 聞くことを教える
5. 読むことを教える
6. 書くことを教える
7. 文化の扱い方
8. 発音と文字
9. テストの作成と評価
10. 能力育成の授業

JAPAN FOUNDATION 日本文化センター

9

中等・高等教育共通

地域巡回日本語教師研修

2023年夏季上海地区地域巡回日本語教師研修会

近年は西安、上海、秦皇島などで実施実績あり

通年で募集中! 全国どこでも出張します

JAPAN FOUNDATION 日本文化センター

10

中等・高等教育共通

地域巡回日本語教師研修

2023年度の募集テーマ

- (1) JF日本語教育スタンダード準拠教材『まるごと』『いろいろどり』を利用した授業
- (2) 能力育成の授業(21世紀型スキルなど)
- (3) 行動中心アプローチ(JF日本語教育スタンダード、Candoなど)
- (4) 初級を教える
- (5) 中・上級を教える
- (6) 読むことを教える
- (7) 聞くことを教える
- (8) 書くことを教える
- (9) 話すことを教える
- (10) 試験の作成と評価
- (11) 文化の扱い方
- (12) ループブックによる評価
- (13) ポートフォリオ
- (14) その他

JAPAN FOUNDATION 日本文化センター

11

海外日本語教師訪日研修 公募事業 11/30締め切り

プログラム名	期間	内容
海外日本語教師 基礎研修	約6か月	専任日本語教師を対象に、日本語運用力の向上を目指すとともに、基礎的な日本語教授法を習得し、また日本の社会や文化を学ぶ目的で行われる研修です。
海外日本語教師 日本語研修	約6週間	日本語運用力の向上を必要とする日本語教師を対象に、日本語と、日本の社会や文化を学ぶ目的で行われる研修です。
海外日本語教師 教授法社会研修	約6週間	日本語教授法力の向上と異文化理解能力の育成を目的として、行われる研修です。
海外日本語教師 ティーチング研修	約5週間	日本語教育の教授法に関する特定のテーマについての研修です。毎年テーマが異なります。

海外日本語教師 オンライン研修

プログラム名	期間	内容
海外日本語教師 オンライン研修	約5～6週間	日本語教育の教授法に関するテーマについて、実践および準備のための基礎知識を学ぶオンライン研修です。毎年テーマが異なります。本誌(2023)専攻は、「大学の教員」「学習を促進する」の2つです。

JAPAN FOUNDATION 日本文化センター

12

中国における日本語教育支援

- 日本語教師研修（高等・中等・研究支援）
- 教材・授業素材
- 各種情報発信
- その他

JAPANFOUN

13

『まるごと 日本の言語と文化』 MARUGOTO 日本的語言与文化

- ことばによるコミュニケーションを通して目的を達成する能力と、自分と異なる文化を理解し尊重する姿勢を養うことができる
- 中国で出版されているため、主教材としても使用可能
- 大学日語(非専攻)の授業や会話の授業で採用されています

写真やイラストが豊富で、学生も興味を持ちやすい！

外研社から中級1まで発売中。中級2も出版手続き中のため、シリーズで使用可能

JAPANFOUN

14

「いろどり生活の日本語」 IRODORI 生活中的日语

中国語版をWebで公開中。
全て無料でダウンロード可能。

- 留学や就労など、日本で生活や仕事をする際に必要となる、日本語の「コミュニケーション力」を身につけるための教材。
- 豊富な音声やレリア(実物教材)や生活に密着したさまざまなトピックが特徴
- 実践的な日本語を学ぶことが可能。
- 中国でもいくつかの大学で「会話の授業」に取り入れられています。

企業内で現地スタッフの日本語勉強会に使用することも。

JAPANFOUN

15

いろどり シャドーイング(影子跟読)用音声

Wechatで配信終了

JAPANFOUNDATION 日本文化センター

16

みんなの教材サイト

ログイン不要で閲覧・ダウンロードが可能になりました！

- 日本語教師のための授業用素材・授業案などが見つかるサイト
- 写真やイラストの一部、教室活動や読解教材、授業案など、約4,300点の素材が利用可能。

JAP

17

ひきだすにほんご「スアン日本へ行く！」

《开口说日语》小春去日本！

ドラマ形式でコミュニケーションの課題を乗り越えるヒントが学べるコンテンツ。日中両言語の字幕を用意。

bilibiliで公開中～

「北京日本文化センター」で検索！
ぜひ「订阅合集」もお願いします。

JAPAN

18

中国における日本語教育支援

- 日本語教師研修（高等・中等・研究支援）
- 教材・授業素材
- 各種情報発信
- その他



JAPANFOU 日本文化センター

19

日本語専門家微博での情報発信

最新の話題&役立つツール紹介

北京日本文化中心日本語... 北京日本文化中心日本語... 快報了

★最近の話題★【オンライン辞書】

テキストや教材を作るとき、「この言い方は一般的なのだろうか？」と思うことはありませんか？ そんなとき役立つのは別々の載った辞書です。最近、日本で辞書の利用や例文づくりのセミナーがあったようで、いくつかの辞書が紹介されていました。

★基本動画ハンドブック... 開封



JAPANFOU 日本文化センター

20



JapanFoundationBeijing 北京日本文化中心 (日本国際交流基金 北京代表部) 官方订阅号, 欢迎关注日本中心...


www.jpfbj.cn

JAPANFOUNDATION 日本文化センター

21

日本語人材へのインタビュー活動

- 様々な業界で日本語を活かして活躍しているする先輩方へのインタビュー記事をWechatで公開。
- 日本語を専攻していて、将来どんな仕事に就けるのか不安を感じている、日本語を学んだ先にどんな道があるのか想像できない、という迷える学生に！
- 日中両言語の記事を用意。



JAPANFOUNDATION 日本文化センター

22

中国における日本語教育支援

- 日本語教師研修（高等・中等・研究支援）
- 教材・授業素材
- 各種情報発信
- その他



JAPANFOU 日本文化センター

23

その他の活動

- 日本語教育機関調査
 - 3年に1度実施
 - 最新のは2021年度に実施
 - 調査結果は国際交流基金の公式ウェブサイトで公開
- 日本語能力試験 (JLPT)
 - 試験問題の作成と海外における実施、結果分析をJFが担当
 - 日本国内における実施は、日本国際教育支援協会が担当
- 主要日本語教育機関・団体とのネットワーク
 - 中国日本語教学研究会ほか28機関(中国本土、香港)

JAPANFOUNDATION 日本文化センター

24



第二部

パネルディスカッション

「今後求められる大連日本語人材の育成と確保」

パネリスト：

重岡純・日本貿易振興機構大連事務所 所長

河口千代孝・野村綜研（大連）科技有限公司 董事・総経理

杜鳳剛・中国日語教学研究会大連分会 副会長

熊鑫・欧力士大厦（大連）有限公司 招商部副総監

モデレーター：

熊野慎治・在大連領事事務所次席領事

パネルディスカッション：「今後求められる大連日本語人材の育成と確保」

熊野：ただいまより、重岡純・日本貿易振興機構大連事務所所長、河口千代孝・大連日本商工会調査企画委員長、野村綜研（大連）科技有限公司董事・総経理、杜鳳剛・中国日語教学研究会大連分会副会長、熊鑫・欧力士大厦（大連）有限公司招商部副総監によるパネルディスカッションを始めさせていただきます。

先程の基調講演において、杜先生から大連における日本語教育の現状と課題、河口委員長から日本企業側から見た人材確保の状況と大学との交流状況、企業が求める人材、そして野田所長から中国における日本語教育支援の現状について講演をしていただいた。これからパネルディスカッションに移るが、大連市で日本語人材を行う意義、日本語人材育成における今後の課題と解決のための方策、大連市政府や日本政府等に対する提言の3つのテーマについて伺っていきたい。

1 大連市で日本語人材を育成する意義

熊野：ある大連市指導者によれば、大連市には日本語を話すことができる人材が約30万人いるとのことであり、日本食レストランやコンビニでも日本語話者が珍しくないなど、大連は中国でも特に日本語になじみの深い都市であると認知されている。日本に理解がある街であることは我々にとって嬉しいことである一方、中国国内の人件費の高騰、チャイナ＋として中国国外への日本企業移転も進み、また巨大な市場としては華東地域や華南地域という選択肢もある中で、大連市において日本語人材を育成していく意味についてはもう一度振り返って考えても良いのではないかと。

まず、日本企業として、日本語人材に優位性を持つ大連という街の位置づけについてどう考えるかを河口委員長に伺いたい。特に投資判断という側面で日本語人材の確保のしやすさがどこまで影響するのだろうか。

河口：大連市の位置づけという点について、冒頭、等々力所長からの挨拶の中で1978年の改革解放以後の話があったように、大連と日本の関係は歴史的に長い関係がある。その意味で、大連の方は読む・聞く・書く・話すの4技能だけでなく、日本の文化やビジネス習慣を理解している方が非常に多いという点が、大きな優位性であると感じている。また、30万人もの方が日本語を話せるというのも、優位性があることだろう。

日系企業目線で、事業のビジネス的な観点で申し上げると、弊社が行っているような対日向けのBTO事業については、日本の顧客とのやりとりが重要である。特に日本語では行間を読む必要があり、例えば、メール文面からこの人は怒っているのか、何を言おうとしているのか、という行間を読み解く能力も、要求されていると感じる。大連の日本語人材

は日本語を学ぶ際にそのような観点を含めて、理解しており、日本人顧客とスムーズなビジネスコミュニケーションを取っている点は非常に大きな利点だと考える。

近年、日本においては労働力人口の減少が叫ばれており、日本向けの仕事という観点では、大連の教育機関において日本語を学ばれている皆様は、大きな優位性やポテンシャルがまだまだあるだろうと感じている。

熊野：東北地方だけで見ても長春なども日本語教育で有名であるが、中国の他都市と比べた大連の特徴はどうなっているのかを重岡所長に伺いたい。ジェトロ大連事務所は今年、東北3省の日本語人材に関する調査や人材関連のイベントも行ったそうだが、日本語人材の育成に関して大連市ならではの特徴や支援があれば、教えてほしい。

重岡：先程の基調講演で国際交流基金北京日本文化センターの野田所長から中国全土での日本語教育支援について話があったが、JETRO 大連事務所の方では、今年3月に東北三省の大学における日本語人材の育成状況に関する調査を行った。日本語学部或いは日本語の複合課程を設けている大学の数は、東北三省に66校あり、これは東北三省全体の大学数の約3割を占めている。市ごとにみると大連市は18校あり、大連市の大学全体数の実に約6割を占めていた。大学の在校生数で見ると東北三省における日本語学習者は2万4000人であった。また、大連市には東北三省全体の大学の日本語学習者の6割を占めている結果であった。本調査は東北三省に限っているが、大連市の日本語人材の育成数は東北3省の中でかなり高い水準にあると思われる。

また、別の指標になるが、2019年日本語能力試験N1の大連の受験者数は上海、北京、広州に続く4番目である。人口100万人あたりの受験者数では、大連は全国で1位である。

JETRO 大連事務所では、今年3月下旬に中国全国の大学在校生や大学で就職指導にあっている教員の方々を対象にウェビナーを開催した。このウェビナーを通じて、中国人の大学生の日本企業へ就職を促進するとともに、企業と人材の間のミスマッチを防ぎ、日本企業で働く際に留意すべきことなどについて理解を深めてもらおうという狙いがあった。このウェビナーに申し込んだ人数は430人を超え、そのうち9割は日本語人材であった。ウェビナーを通じ、日系企業への就職に関する関心を窺い知ることが出来た。

さらには今年5月に、大連外国語大学と共催で、日本語人材の育成・就職に関する交流会を開催した。大連外国語大学からは学長、副学長、日本語人材を育成している先生方、さらには大連市の企業17社に参加いただいた。大連外国語大学からは大学の日本語人材の育成、就職状況についてご紹介いただいた。参加企業の各社からは採用情報、採用予定、要望なども話をしていただいた。JETROは中国に全部で7箇所の事務所があるが、このような活動をしているのは大連だけである。

これらのイベント需要があるのは、それだけ大連が日本語人材を輩出しているということでもあると思うし、大学や企業間のマッチング等の意識が高まっていると考えている。

熊野：重岡所長から話のあった東北三省の日本語を学んでいる学生の6割が大連にいるという事実は驚いたが、確かに大連の日本語レベルは高く、日本語学部のある学校も多い。それでは杜副会長に伺うが、何故、大連では日本語教育が盛んなのか、特に人材育成において他地域と異なる特色はあるか。

杜：大連市は他の都市と比べて、日本語教育が盛んな理由として以下4点あると考える。まず、1点目に大連の伝統と社会環境である。私は大連生まれであるが、幼い時から日本語が身近であった。今はあまり使われないが、大連人がかつて日常で話していた方言の中に、日本語から影響を受けているものがある。例えば、「大連駅」や「りんご」、「ワイシャツ」などがそうである。お年寄りの中には日本語がよく話せる方がいたし、私が大学時代は、多くの日本語教師が日本に留学した経験がある等、日本語レベルが高かった。そういう意味で日本語に親しみを持っている方が多い。

2点目に改革開放以降の歴史的経緯である。1980年代の初め頃、大連市は改革解放の都市に指定され、特に、日本への開放政策窓口としての役割を期待された。日本企業の誘致が盛んになり日本からのビジネスマンや観光客が急激に増え、大連市として日本語教育の需要が増加した。ある種の日本語ブームとなり、学校で日本語クラスが設けられるようになった。

3点目は教育機関が充実しており歴史がある点である。他都市と比べ大連市は教育機関数が多く、私の母校である大連外国語大学はもう創立60年近くである。現在勤務している大連理工大学は、理科系であるが、理科系の学生に対して日本語を使用した講義を実施しており、恐らくこれは中国国内で最も早い取り組みだと思う。このような教育機関の充実が日本語教育発展の基盤となっている。

4点目は、人材育成の実用性、多様性を重視している点である。授業の内容としては、昔は全て統一した教科書であったが、現在は多種多様であり、学校独自で教科書を編集して使用している場合もある。総じて大連市の日本語教師の能力は高く、責任感も強い。

2 大連での日本語人材育成に関し、現状抱える課題及びその改善策

熊野：ありがとうございます。大連と日本がこれまで強い結びつきをもっており、それにより日本語教育が大連の強みになってきたのだと感じる。続いて、現在日本語教育環境が抱える課題はどういうものなのか話を進めたい。先程杜副会長からの講演でも紹介があったが、事前に行ったアンケートによれば、大連での日本語教育はいくつかの課題を抱えていることが伺える。

河口委員長にお伺いするが、業界や職種による差異はあると思うが、今後の日本企業の大連での進出・発展動向から見て、どのような日本語人材がより求められていくと考える

か。また、人材の送り出し元である大学等教育機関との協力は必要と思うが、先ほど河口委員長の講演においてNRI大連と大学との間での先進的な協力等について説明頂いた。一方、多くの日本企業は必ずしもそこまで対応できていない現状もあると思うが、大連に所在する日本企業としてどのようにして大学等教育機関との関係を効果的に構築していくべきと考えるか、アドバイスがあれば伺いたい。

河口：まず、質問後半の「企業と大学との連携」について回答するが、弊社が大連外国語大学との共同講座を開設する中で感じたことは、企業側と大学側の信頼関係を築くことの重要性である。例えば、いきなりインターンシップや企業と連携した講座を行うといっても、大学側・企業側それぞれから、本当に相手方と協力して問題ないかと考える方が多くいるのではないかと感じる。そのため日系企業側としては足繁く大学や教育機関と交流し、対話を通じて信頼関係を築くことが非常に重要であると感じる。弊社のように大学で企業講座を設ける場合、大学側も企業側も真摯にお互い向き合い、どのような講座が学生側、企業・業界側にとって需要があるかを考えられると良いと思う。

もう1点は、先程弊社の取組みについて説明申し上げたが、本日フォーラムにご参加されている方の中にはそもそもNRI大連をご存知でない方がいるかもしれないし、たとえ、NRI大連を知っていても弊社が大連外国語大学と一緒に企業連携クラスを実施していることを知らない方が大部分ではないかと思う。こういった企業と大学の連携事例について共有する場は重要であり、本日、大連領事事務所の方が主催でこのような日本語人材フォーラムの場を設けていただいたが、今後は政府や大学側が開催しても良いと思う。交流の場では、実際に企業側で今取り組んでいる事例やその課題は何かを共有することで、企業側としては大学関係者と直接的に交流できる機会が増え、大学側も日系企業がどういう課題に悩んでいるか理解し、今後の更なる交流に活かせると思う。

質問前半の「これからはどんな人材が求められるか」という点については、先程申し上げたとおり言葉は文化であり、単に読む・聞く・書く・話すという4技能だけでなく、言葉の先にある文化や商習慣を理解していく、つまりは、日系企業側がどういう人材を必要としているのかという企業文化や日本の商習慣を理解してすることが大事である。文化・習慣への理解をベースにして、各企業・業種によって求めるプラスα能力が変わってくる。例えばIT系であればDXや、新しい技術に取り組む能力、工場系であれば品質改善のためのスキル等が求められるだろう。学生がキャリアパスとして描いている業種・業界に合わせて求めるプラスα部分を磨いていただくと良いだろう。企業側としては、学生が将来のキャリアパスを描き、必要な能力を考えるためにもインターンシップや企業紹介などの機会を提供できれば良いと考える。

熊野：河口委員長から具体的な提言をいただいた。続いて、重岡所長にお伺いするが、JETRO 大連事務所としても人材ウェビナーや大学との交流を盛んに行っておられるが、重岡所長の考える日本語人材の育成や就職の課題について教えてほしい。

重岡：本年3月にウェビナーを実施したが、日本企業と中国人人材について、マッチング経験が豊富な3名の講師の方から講演していただいた。

テーマは、「日本国内大手企業の海外人材戦略」「日本国内の中小企業の採用ニーズと外国人材採用時のメリット・デメリット」「中国国内の日系企業の採用動向について」であり、最初の2つは日本国内のマッチングの話である。講師の方々からご指摘があったのは、日本語ができるということはプラスの点ではあるけれども日本語が出来るというだけでは就職の選択肢が狭まってしまうため、これからは日本語プラス α 人材が求められるということが指摘された。プラス α として求められる能力は企業によってそれぞれ異なるが、学生の立場からいうと、自身の得意の分野を伸ばすことを意識する傾向にある。講師からは、就職資料で企業動向等を見ながら、大学機関で必要なスキルを習得・学習していくことが良いと薦められた。

また、大連外国語大学と企業の交流会も実施したが、参加した企業からは日本語専攻学生がさらに伸ばすべき能力として、IT等の具体的な専攻知識はもちろん、それ以外にも学生の自主性や発想力、チャレンジ性等といったソフトスキルを伸ばしてほしいという声が寄せられた。

熊野：河口委員長、重岡所長のお話を通して、企業や業界によってそれぞれプラス α として求められる能力が異なり、その観点から言うと学生に合わせて教育内容をカスタマイズする必要があるとも感じられる。大連で日本語を学び日系企業で働いている熊副総監にお伺いするが、実際に日本企業で働いてみて学校で勉強した知識と大きく違った、大学で学べていれば良かったことは何か？また、日本語人材が確保できないという意見があるが、給与水準以外に学生が重視する要素は何か。

熊：私は大連外国語大学出身だが、1点目の質問の大学で勉強したことと社会で求められる能力の乖離がある点は、まずは応用力だと感じる。教科書で学んでいない日本語や事柄でも、その意味を正しく理解する力が求められる。次に、自主的な勉強能力も重要だと思う。学生時代は教師に質問されて回答するという受け身の姿勢が多々見られるが、会社に入社後は、他人からの指示を待つのではなく、自主的に物事を考え、実施することが重要だと感じる。さらに、技術的な面、例えば報告のテクニック等も重要だと思う。悩みや困難に直面した際にどう対処すればよいか、これは学生対先生の関係ではなく、例えば解決策を2、3個用意し、どれがふさわしいかを上司に相談するということである。このような

実践的な技術はとても大切であると職場に入って痛感しているため、これらを事前に学ぶ機会があれば良かったと考えている。

2点目の質問の学校で何を学べれば良かったかということについては、先程河口委員長から発言があったとおり、語学プラス専門知識が必要であると考えます。語学はコミュニケーションのツールとして重要であるが、成長を更に目指すのであれば専門知識を事前に勉強した方が将来のためになると思っています。プラスαの知識は、貿易・財務・会計・金融・IT等何でも良いので、学生時代の内からしっかり勉強した方がいいと思う。

また、チームワークスキルを学生時代に鍛えた方がいいと感じる。語学の勉強は1人でできるが、会社での仕事はそうではない。1つの仕事を完成するために他の人と連携し、サポートをもらわないといけないので、コミュニケーション能力や相手の立場に立って考える能力が重要である。

さらに、ある意味簡単な話ではあるが、オフィス関連のソフトウェア技術を修得した方がいいと感じる。職場に入って中国の学生と日本の管理者との違いとして感じるのは、中国人学生は日本の職場のルールをよく理解していないということである。特にオフィス関連ソフトの表の作成、数字のそろえ方、書式、改行の方法等、細かい部分ではあるが、これらを勉強する機会がなかなかない。そのため、このようなスキルも大学時代に学べたら良かったと思う。

最後に、学生時代の内に社会との繋がりをもっておいた方がいいと思う。周りの教授や先輩のリソースを使い、実際に働いている方の声を聞き、企業の業務や業種は何があるか、業界の景気状況等の話を聞けると、就職活動時の判断材料になると考える。

熊野：様々な意見が出たが、それを踏まえて杜副会長に3点伺いたい。1点目として、大連の大学としてはどのような日本語人材を育てたいと考えているか。2点目に大連には多数の日本語を学べる大学がある一方で、他の専攻もそうだが多くの日本語専攻学生が大連市外に流出してしまうという現状がある。大学側としては卒業生の市外への流出をどう考えるか、大連に学生を残すための取組、大連の日本企業への提言はあるか。また3点目として、企業のニーズにあう人材を育成するためにどのような取組を行っているか、アンケートによれば多くの大学で日本企業との交流機会を希望する声が多かったが、具体的な提案等あれば伺いたい。

杜：1点目の育成する日本語人材については、社会や企業のニーズに合う人材育成を考えなければならない。各大学はそれらニーズに基づいて、それぞれ対応している。例えば、実用的な講座の開設や、日本語専攻でも日本語プラスα人材の育成等、様々な取り組んでいる。今後も日本語教師については、今まで積み重ねてきた経験を生かして工夫を続けてほしい。

今は、私の年代と比較して、社会全体が進んでおり、日本語学習のためのツールが豊富にある。そのため、教育も新しい時代に合わせて、改革する必要があるのではないか。私の学生の頃は教科書自体が非常に貴重であり、日本人が書いた教科書を読みたくてもなかなか入手できなかった。そのような環境の下、努力して学んできたが、今は簡単に多様な勉強ツールを入手できるので、かえって努力しなくなる恐れもあるだろう。このような現状にいかに対応するかが重要である。これは大学内の経営にも関連するが、大学は教員の研究能力を重視している。教師としては、より高いレベルの研究をやりたい。他方、学生側の授業への情熱は昔と比べると欠けている現状がある。大学の状況はそれぞれ異なるが、適切な対応がもとめられている。

2点目の人材流出問題については、大学のみで考えるよりは社会全体で考えるべき問題である。多くの学生は、発展が早く給料の高い都市に行きたがっている。大連市全体の就職環境の整備や日本語人材が活躍できる多種多様な場の提供は重要である。大学も学生会を作り、学生間の連帯感を育てる等の努力をしているが大学だけではできることには限界があろう。

3点目の質問に関し、企業側と大学側はお互いに交流をしたいという希望を持っており、本日のフォーラムのような交流の場は非常に有意義である。先程の休憩時間中に参加者の皆さんとも話したが、我々大学側は交流したいという希望をもっている機会がなかなかない。また、企業も大学も人事異動があるため、連携を継続することが重要である。私自身、日本語専攻の担当者になった際に、よく交流していた日本企業の方がいたが、その方は人事異動により日本へ帰国し、私も退職しているため、若い世代への引き継ぎのためにはお互いの努力が必要である。河口委員長からお話があったように、一部大学では企業と交流を行っている。大連外国語大学は規模が大きいのでよく注目されるが、他の大学でも日系企業との交流の機会が欲しいという声が大きいため、希望している大学に機会を提供して欲しい。

熊野：杜副会長から企業側も大学側も交流したいという話があったが、このような交流は河口委員長の指摘された信頼関係、対話交流に繋がると思う。河口委員長からコメントはあるか。

河口：事前アンケートでは、企業側の意見として大学との交流を希望していても機会が少ないという声があった。大連日本商工会調査企画委員長としては、毎年投資環境案件としてアンケートを採っているため、アンケートを通じて大学の皆様と交流を図りたいという企業があれば、大学と企業の交流の場を設ける等の形で大学側との交流が一層進展するのではないかと思う。また、NRI 大連の総経理としての意見を述べると、企業連携クラスは営利的な性質もあるため、商工会が推進することは難しい部分があるかもしれない。他方、弊社にお声がけいただければ、既に弊社が実施している企業連携クラスに、希望する

日系企業の方に参画していただき、企業連合クラスとして運営して行くのもよいかと考えている。

3 今後取り組むべき施策等提言

熊野：非常に具体的なアドバイスをくださりありがとうございます。様々なアイデアがあった一方、一企業や大学では対処が難しい部分もあると思う。最後に大連市政府や日本政府への提言でも結構なので、希望も含めて今後への提言を一言ずつお願したい。

熊：私はこれまでの話を聞いて、今の学生をうらやましく思う。私が学生の頃の13年前は何もなかったが、今は豊富なルートがあつてうらやましい。是非今後ともできるだけ多くの企業と連携できれば良いと思う。定期的な企業の説明会やインターンシップの導入をお願いする。

杜：関係者がこういう問題を取り上げることが非常に大事である。以前、日本企業との交流は大連市が先に立って行っており、政府は日系企業との交流を重視していた。私は大学卒業後しばらく政府関連の仕事をしてしたが、当時の魏富海市長は日本との交流を重視し、あらゆる場を作って皆に交流の機会を提供した。このように、交流する場を創出ことが非常に大事。

河口：大学側、企業側の交流は有意義であるため、政府への要望としては、交流の場を後押しして欲しい。これまでコロナ禍でしばらく開催できなかったが、本日領事事務所が主催で開催されたことは喜ばしい。商工会のアンケートの中では、助成を期待している声もあり、その点も是非サポートして欲しい。大学教育関係について述べると、学生の皆様は大連に残って活躍することが望ましいが、社会への貢献や学生のことを考えると、場所にとらわれず、将来的には日本や世界で活躍し、社会貢献できる人材を育成してほしい。弊社の企業連携クラスもそのような観点から授業設定している。

重岡：我々が実施した事業を通じて、学生さんの側からは就職をテーマにした人材育成セミナーを設けて欲しいという声があつた、また、交流会では企業の方から双方のミスマッチを防ぐために交流は重要との声をいただいている。先程、お話の出ていたインターンシップについては企業によって受け入れが難しい場合もあるだろう。インターンシップ受け入れが実現すれば望ましいが、形にこだわらず、アンケートにもあつたように、学生の企業訪問やワークショップの開催等があれば、大学側が新たな教育プログラムを開発するためのヒントを得ることにもなるだろう。JETROとしても継続的に人材関連のイベントを実施していくことで、日本語人材の育成と日系企業の人材確保に寄与したいと考えている。

熊野：パネリストの皆さん、ありがとうございます。非常に有意義な提言をいただいた。続いて、フロアからの質疑応答に移りたいと思う。質問がある方は挙手の上、指名された場合にお名前とご所属を述べた上で質問をお願いします。

(大連大学 阿彦一志氏)

大連大学の阿彦と申します。本日はありがとうございます。大連大学は日本語専攻学生数は約 500 名おり、4 年生は就職活動を行っている。先日、複数社の企業を呼びブース形式の合同説明会を行った。日系企業ではパンチ工業株式会社、三菱重工叉車製造（大連）有限公司、大連日清製油有限公司の 3 社が参加していたと記憶しているが、日系企業の参加社数が少ない印象をもった。私は大連大学で日本語を教えて 3 年になるが、それまではずっと日系企業で働いていた。

個人的に感じるのは、中国の学生の弱みはアルバイト経験がないところである。勉強を頑張っているが、社会を知る機会が限られている。現在、就職簡単ではないと聞いているが、できれば 2 年生の終わりや 3 年生の初めの段階で会社の方と交流し、会社側のニーズを知ること、問題意識をもって勉強へのスイッチが入ることを期待している。商工会でそのような機会があれば、社会貢献にもなるので、そういう交流の場を提供していただけるとありがたい。

河口：商工会としては、各企業の経営状況もあるため、一概にすぐ実施できるとはお答えできないが、希望する企業があれば、大学へ紹介する等の連携をとり、機会創出できれば思う。

(大連外国語大学 陳岩氏)

大連外国語大学の陳岩です。本日は大変示唆に富むパネルディスカッションでした。河口委員長の話に関連して、NRI 大連と大連外国語大学が企業連携クラスを作るというのは非常に師範的な意味があることだと感じ、高く評価する。企業連携クラスの第一期生徒は 30 名履修生がいたものの、結果的に NRI 大連に就職した人は 6 名しかおらず、全体の 5 分の 1 しかないが、この結果についてどう評価するか。結果に満足しているか。

河口：私からすると 6 名も入社していただけて、多かったという印象である。6 名の方に入社していただき感謝しているし、成果としては非常に有意義であった。必ずしも多くの方が弊社に入社することを企業連携クラスの目的としておらず、他社への就職含め社会で活躍できる学生を育成することを目的としている。

陳岩：そのように回答いただけて感謝。

熊野：パネルディスカッションは時間の関係でここまでとさせていただきます。本日は大連の日本語人材の現状と今後について様々な有益な意見交換ができた。特に商工会、日系企業側と大学側との間で意思疎通ができたのは一つの成果だと考える。今後の具体的な協力のあり方については関係者の間でフォローしていきたい。また、大連市政府や日本政府への提言については、今回のパネルディスカッションの成果と共にフィードバックしていくこととする。

共催者代表挨拶

柴田晃伸・大連日本商工会会長

陳岩・中国日語教学研究会大連分会会長

共催者代表挨拶

1 柴田晃伸・大連日本商工会会長挨拶

みなさんこんにちは。私は大連日本商工会の今年度会長をしている、日本航空大連支店の柴田と申します。まずは、今回第5回日本語人材育成フォーラムが無事開催されましたことをお喜び申し上げます。

今回のフォーラムでは企業側の貴重な取組みを非常に多く伺うことができ、また、ビジネスシーンに基づくパネルディスカッションでは、実務に直結する内容を伺うことができ、大変勉強になった。講演をしていただいた皆様、パネラーの皆様誠にありがとうございました。

フォーラムの中で紹介のあったアンケート調査によると、企業側から日本語人材に対しては、単に日本語能力だけではなく、人間としての総合的な能力、コミュニケーション能力、また、ビジネスマナーなどの知識を求める傾向が強くなってきているとのことである。

学生の皆様からすると、従来よりも自分に求められている要求が高くなっていると感じるかも知れないが、どのようにそれらの能力を高めれば良いのだろうか。「総合的な」とか、「文化」というのは言葉ではわかっていても非常に抽象的なもので、なかなかわかりづらいものだと思うが、それらの能力を向上させる上で、先生方、学生の方によれば、インターンシップや企業側からの説明会というのが非常に有効的な学習手段であると認識されており、我々企業側にそのような場を設定してほしいという期待を持たれていることを再認識した。

その一方で、大連日本商工会企業の中にもそのような交流機会を得たいと考えている企業様がいるが、実施に際して、大学や学生と具体的にどのような連携をもっていいかわからないという意見があるということを経験した。今日このフォーラムを通じて感じた。大学側も企業側もお互いに思っていることは一緒だが、「場」がないのでなかなか出会えないという状況になっていると感じる。

大連日本商工会としては、会員企業に本日のフォーラム内容をフィードバックする。先程申し上げた「場」については、在大連領事事務所が今回交流の「場」を設定したが、今後も大連市政府、各大学、JETRO との連携を取りながら、企業と学生間の交流機会が増加するようにしたい。学生の能力向上、効果的な人材育成のため、また、企業側としても求める人材が確保できるようにするために環境を構築していきたい。

大連は日本語教育という意味で、中国国内で優位に立っているが、将来に亘ってもこの状態が維持できるように大連日本商工会としても努力したい。

また、日本語人材の皆さんは、ここ大連で働けるように大連日本商工会としても全力で協力していきたいと思うのでよろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

2 陳岩・中国日本語教学研究会大連分会会長挨拶

ご紹介にあずかりました陳岩です。一言ご挨拶申し上げます。

尊敬する等々力所長、重岡所長、柴田会長、野田所長、ご在籍の皆様こんにちは。

まず、中国日本語教学研究会大連分会を代表して、長期に亘り大連の日本語教育へのご支援に感謝申し上げます。大連は中国における日本語教育の重鎮とされており、中国の日本語教育発展に大きく貢献してきた。大連の日本語教育の発展は、優れた立地条件や中国の改革開放政策によるものだけではなく、在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所をはじめとする、日本語貿易振興機構大連事務所、大連日本商工会、そして大連に進出している日本の企業等ご支援等も大きな役目を果たしている。

これらの機関や企業の支援により、大連の日本語教育環境は充実し、学習者はより効果的に日本語を学ぶことができた。さらにインターンや交流イベントなどの文化交流機会も増え、学習者は日本の文化や社会についても深く理解することができた。

しかし、大連の日本語人材育成にはまだ改善の余地があると認識している。例えば、学校で学んだ日本語と実務で必要な日本語の間に食い違いがある、日本語以外の業務能力が不足している、日本の企業文化やビジネスマナーに関する知識が不足している等の課題がある。

大連の日本語人材育成のレベルアップのために、学習者の将来のキャリアや個人的な成長をサポートするために、引き続き大連の日本語教育に対するご支援をお願い申し上げます。

最後に改めて大連の日本語教育へのご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

閉会挨拶

重岡純・日本貿易振興機構大連事務所所長

重岡純・日本貿易振興機構大連事務所所長挨拶

ご来場の皆様、フォーラムでご講演、ディスカッションにご参加された皆様、本日は長時間大変にお疲れ様でした。

本フォーラムは大連での日本語人材について改めて考える良い機会だったと思う。人材は企業にとって最も基本的かつ必要なリソースであり、日本語人材が日本企業にとって重要な役割を担っていることは今後も変わらないだろう。他方、日本語人材をとりまく環境や社会情勢はめまぐるしく変わっていくことは想像に難くない。したがって、日本語人材がうまく社会にニーズにマッチしていくよう、企業、教育機関、そしてJETRO, 多様なニーズを敏感に捉え、変化していく努力が必要だと考える。

本日のフォーラムをきっかけとし、産官学が連携し、同じ方向を向いて変化をしていければと思う。

大連が優秀な日本語人材を輩出するフロントランナーであり続けられるよう、皆様とともに継続的な取組みをしていきたい。本日はありがとうございました。

